

第2次はこだてげんきな子 食育プラン
(函館市食育推進計画)(案) 概要

第1章 計画策定に当たって（本文：1～2 ページ）

1 計画策定の背景

平成17年に制定された食育基本法に基づき、平成23年3月、函館の未来を担う子どものための食育を組織的、総合的に推進することによって、市民一人一人が食育に理解を深め、食を通して心豊かで健やかな暮らしを実現することを目的として第1次計画を策定した。

第1次計画が今年度で満了になることから、評価を行い、その結果を踏まえ、関係団体との連携を一層深めさらに食育を推進するため、計画策定委員会を設置し、第2次計画を策定した。

2 計画の位置付け

食育基本法第18条第1項の規定に基づく市町村食育推進計画であり、新函館市総合計画を具体化する個別計画として位置付け、「健康はこだて21（第2次）」等の関連計画との整合性を図った。

3 計画の期間

平成28年度から平成32年度までの5年間とし、必要に応じ見直しを行う。

4 計画の推進体制

組織的、総合的に推進するため、保健福祉部をはじめ、子ども未来部、農林水産部、教育委員会で構成する内部組織と、家庭や幼児教育・保育施設、小・中学校等、地域、生産者・事業者などで構成する外部組織において定期的に協議の場を設け、計画の進行管理を行い、計画期間満了時には、評価を行い、第3次の計画を策定する。

第2章 前計画の評価結果について

1 前計画の概要（本文：3 ページ）

前計画の「理念」、「基本目標」、「具体的目標」を記載している。

〈理念〉食育は、函館市民一人一人が食を通じて心豊かで健やかな暮らしを実現することができるように推進する。

〈基本目標〉

- (1) 食で健康なからだをつくる
- (2) 食で豊かな心を育む
- (3) 函館の豊かな食資源や食文化を通して食の大切さを知る

〈具体的目標〉

- は：「早寝・早起き・朝ごはん」規則正しく毎日を過ごそう。
- こ：心とからだを育てるみんなで囲む食卓を大切にしよう。
- だ：大事だよ、しっかりかむこと、磨くこと。
- て：手間かけて、愛情こめて作りましょう。
- げん：元気なからだをつくる、食事をきちんととろう。
- き：郷土の食材を取り入れた料理を覚えよう。
- な：何でもおいしく食べよう。
- こ：声に出し、「いただきます」のごあいさつ

2 これまでの主な取組について（本文：4～15 ページ）

(1) 家庭 ～家庭への啓発等～

「はこだてげんきな子 食育プラン」（食育推進計画）の親子向け概要版の作成・配付，食育講演会，食育月間キャンペーン，両親学級，離乳食教室の実施など各種食育啓発事業に取り組んだ。

(2) 保育所・幼稚園・学校

保育所・幼稚園・小中学校等で食に関する健康教育，食育教室の実施のほか，食農活動の実施，学校給食における地場産品の使用拡大などの食育事業に取り組んだ。

(3) 地域

児童館，家庭教育セミナー，社会学級等における食育教室の実施などの食育事業に取り組んだ。

(4) 生産者・事業者

魚食普及対策，青果物地方卸売市場活性化対策，農水産物ブランド化推進事業，農業体験施設などの食育事業に取り組んだ。

(5) 行政

ヘルスマイト（食生活改善推進員）の育成，食に関する健康教育，歯周病予防・生活習慣病予防教室などの食育事業に取り組んだ。

3 指標の達成状況（本文：16～19 ページ）

前計画の指標の達成状況について，市が実施している各種調査や保護者へのアンケート調査結果等により把握したところ，下表のとおり5項目の指標のうち4つの指標で目標達成または改善傾向にあるとの結果になった。

基本目標	指 標		現状値 (当初値)	平成26年度値	目標値	達成状況 (※)	
			平成21年度				
食で健康なからだをつくる	朝食を必ずとる子どもの割合が増える	小学4年生	82.0%	82.0%	100%	C	
		中学1年生	76.0%	79.2%		B	
	子どもの肥満の割合が減る	1歳6か月児	1.3%	0.5%	現状値以下	A	
		3歳児	2.4%	1.8%		A	
食で豊かな心を育む	子どものむし歯のある割合が減る	1歳6か月児	5.4%	3.8%	3.0%	B	
		3歳児	30.1%	21.5%		25.0%	A
	函館の豊かな食資源や食文化を通して食の大切さを知る	学校給食における地場産食材の割合が増える	米・パン用小麦	100%	100.0%	現状値以上	A
			生鮮野菜	70%	82.4%		
海藻類			39%	66.7%			
生鮮果物			3%	26.0%			
魚介類			28%	55.2%			
肉			91%	100.0%			
牛乳			100%	100.0%			
卵	100%	100.0%					
			平成21年度				
		ヘルスマイト（食生活改善推進員）を増やす	93人	99人	現状値以上	A	

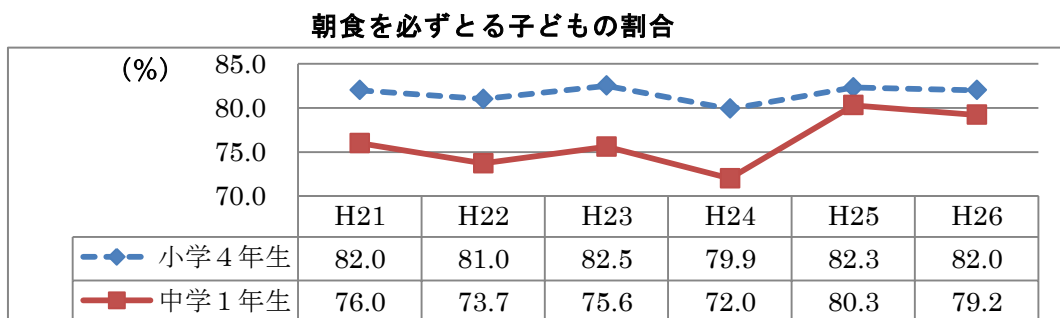
※達成状況 A：目標達成 B：目標達成はしていないが改善傾向

C：変化なし D：改善していない

(1) 朝食を必ずとる子どもの割合が増える【目標値 100%】

年度ごとに増減がみられるが、平成26年度では、小学4年生の約8割強が「必ず食べている」と回答しており、朝食を欠食することがある児童の割合は、2割程度で、平成21年度の当初値と同様となっており、目標達成には至っていない。

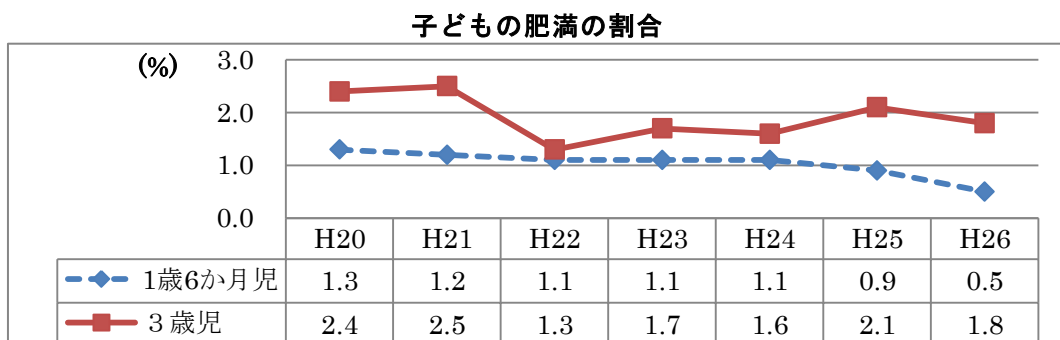
中学1年生は、平成21年度の当初値を3.2ポイント上回っており、目標達成には至っていないが、改善傾向がみられている。



資料：教育委員会「学習意識調査」

(2) 子どもの肥満の割合が減る【目標値 現状値以下】

1歳6か月児、3歳児の肥満の割合は、平成20年度の当初値からそれぞれ0.8ポイント、0.6ポイント減少しており、目標を達成している。



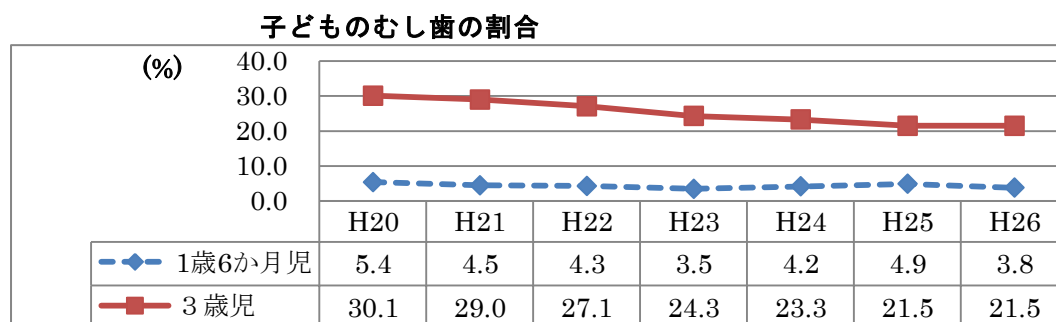
資料：子ども未来部「1歳6か月児および3歳児健康診査結果」

注) 子どもの肥満とは、性別、年齢別、身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者をいう。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100%

(3) 子どものむし歯のある割合が減る【目標値 1歳6か月児 3.0%、3歳児 25.0%】

1歳6か月児、3歳児のむし歯の割合は、平成20年度の当初値からそれぞれ1.6ポイント、8.6ポイント減少しており、1歳6か月児は、目標達成には至っていないが、改善傾向がみられている。なお、3歳児は目標を達成している。



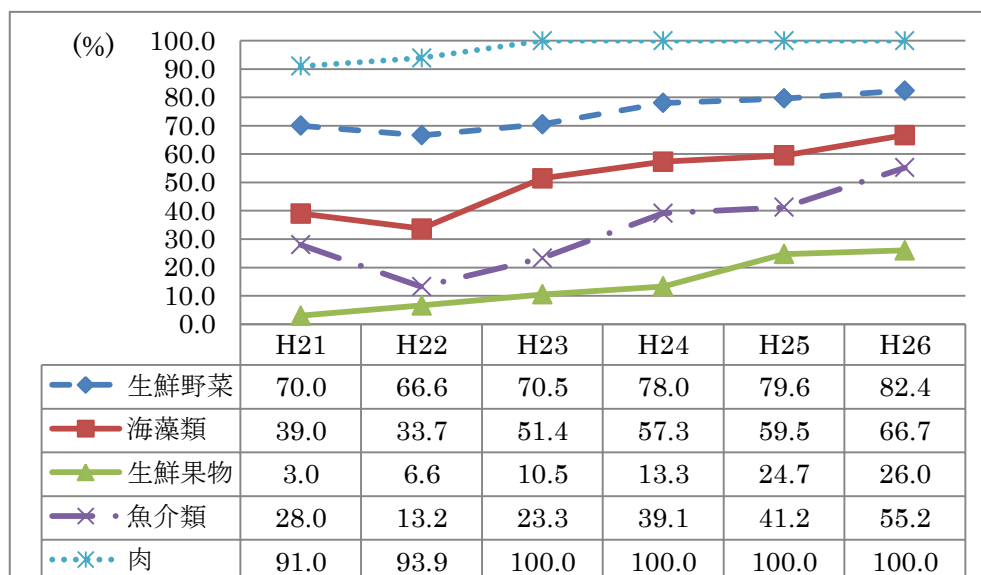
資料：子ども未来部「1歳6か月児および3歳児健康診査結果」

(4) 学校給食における地場産（北海道産）食材の割合が増える【目標値 現状値以上】

地場産（北海道産）食材の割合(重量ベース)は、米・パン用小麦，牛乳，卵は，平成21年度の当初値から100%であり，肉は平成23年度から100%になっている。

また，生鮮野菜は12.4ポイント，海藻類は27.7ポイント，生鮮果物は23.0ポイント，魚介類は27.2ポイントと大幅に増加するなど，全ての項目で目標を達成している。

学校給食における地場産食材の割合（重量ベース）



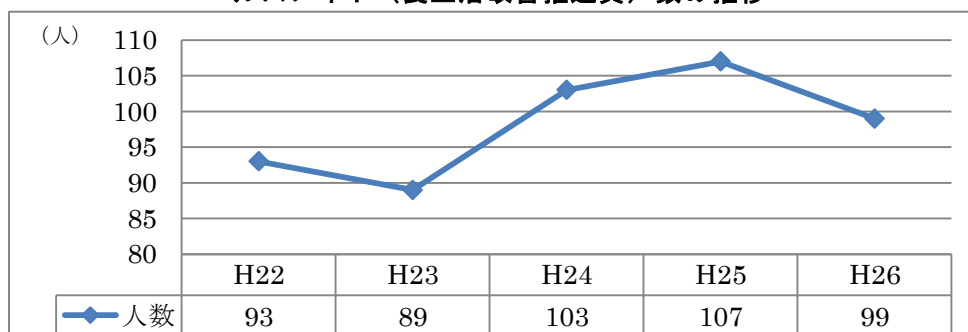
資料：教育委員会

注) 米・パン用小麦，牛乳，卵は平成21年度の計画策定時から100%を維持しているため除く。

(5) ヘルスマイト（食生活改善推進員）を増やす【目標値 現状値以上】

食を通じた健康づくりのボランティア活動を実践しているヘルスマイト(食生活改善推進員)は，毎年養成講座を開催し，新たな推進員の養成に努めている。退会等で年度ごとの増減があるが，平成21年度の当初値から総数では6人増えている状況にあり，目標を達成している。

ヘルスマイト（食生活改善推進員）数の推移



資料：保健福祉部

4 食をめぐる現状と課題（本文：20～34 ページ）

(1) 食について

- ・ **3 歳児の朝食**…摂取状況の改善や内容の充実（3 品（主食，主菜，副菜，牛乳・乳製品，果物のいずれか 3 品）摂取の増加）がみられる。
- ・ **おやつ（間食）**…おやつ（間食）の望ましい与え方についての一層の啓発が必要。
- ・ **共食の状況**…改善傾向にあるが，小・中学生の約 10%が週に 1～2 日は孤食の状況にあり，共食の機会を増やす必要がある。

(2) 健康について

- ・ **小・中学生の適正体重児**…北海道，全国に比べて少ない。
- ・ **成人（20～64 歳）の肥満**…20 歳代男女の肥満が全国に比べて多い。
40～64 歳男性の肥満が全国に比べて多い。
- ・ **成人（40～74 歳）の食習慣**…健康上望ましくない食習慣が北海道と比べて多い。
- ・ **子どものむし歯**…1 歳 6 か月児，3 歳児のむし歯の状況は改善傾向にあるが，北海道，全国に比べて多い。

(3) 地産地消について

- ・ **学校給食の地場産（北海道産）食材の使用割合**
…生鮮野菜，魚介類，生鮮果物，海藻類で増加している。
(生鮮野菜，魚介類，海藻類の函館産の使用割合の増加が顕著である。)

第 3 章 食育推進の理念と基本目標（本文：35～36 ページ）

第 1 次計画の「特に，函館の未来を担う子どものための食育を組織的，総合的に推進することによって，市民一人一人が食育に理解を深め，食を通じて心豊かで健やかな暮らしを実現する」という目的を継承し，引き続き以下の「理念」，「基本目標」，「具体的目標」に基づき，食育を推進する。

1 食育推進の理念

食育は，函館市民一人一人が食を通じて心豊かで健やかな暮らしを実現することができるように推進する。

2 食育推進の基本目標

(1) 食で健康なからだをつくる

子どもの発達段階に応じた望ましい食習慣を形成し，食の知識を身に付け，生涯にわたって健康で過ごすことができるようにすることを目標とする。

(2) 食で豊かな心を育む

家族団らんでの食事など様々な食の体験を積み重ね，食の大切さを知ることにより，生涯にわたって心豊かに過ごすことができるようにすることを目標とする。

(3) 函館の豊かな食資源や食文化を通して食の大切さを知る

函館は，農水産資源に恵まれ，それらを活用した豊かな食文化が息づいている。生産者等への感謝の気持ちを持ち，食の大切さを実感することができるようにすることを目標とする。

3 食育推進の具体的目標

食育推進の理念および基本目標にそって食育を推進するための具体的な目標として、「はこだてげんきなこ」を設定し、取り組む。

(具体的目標「はこだてげんきなこ」は1ページに記載のとおり)

第4章 各分野の役割と取組 (本文：37～46 ページ)

各分野における重点取組 (《新》：第2次計画で追加した取組)

分野	重点取組
家庭	<p>《新》ア 「早寝・早起き・朝ごはん」の実践に努めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夕食後(就寝2～3時間前)のおやつ(間食)を控えさせましょう。 ・ 幼児と小学生は22時頃までに寝る習慣を身に付けさせましょう。 ・ 朝食の30分前には起床させ、おかずのある朝食をしっかり食べさせましょう。 <p>イ 1日1回以上は家族そろって食事をとる機会をつくり、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつなど食事のマナー、食事の楽しさ、食に関する感謝の気持ちを学びましょう。</p> <p>ウ 栄養バランスに配慮した「主食」、「主菜」、「副菜」、「汁物」のある和食を基本に、愛情こめて作りましょう。</p> <p>エ 「空腹は最高のご馳走」といわれます。一日の食事のリズムを整えて、おなかをすかせて食事をとるようにしましょう。そして、ゆっくりと良く噛んで食べましょう。</p> <p>《新》オ おやつ(間食)は、食事のリズムやバランスをくずさないよう、油脂分の多い物や甘い物の食べすぎのほか、習慣化にも注意し、上手にとりましょう。</p> <p>《新》カ 地元の野菜や魚介類をもっと食卓に上げて、“我が家の味”や“故郷の味”を次の世代につなげていきましょう。</p> <p>《新》キ 家族みんなで、定期的に歯科検診を受診し、むし歯を予防しましょう。</p>
小・幼児教育・ 保育施設・ 中学校等	<p>《新》ア 幼児教育・保育施設では、子どもの発育および発達に応じた食育の推進に努めましょう。</p> <p>イ 小・中学校では、様々な教育活動を通じて食に関する指導の充実に努めましょう。</p> <p>ウ 野菜や米の栽培、収穫、調理を通じて、収穫の楽しさや食べる喜びなど子どもたちの食への興味・関心を高めましょう。</p> <p>エ 家庭に対する食育の情報発信に努めましょう。</p>
地域	<p>ア 児童館や町内会単位で、子どもから高齢者までが世代を越えて参加できる食に関わる季節の伝統行事などを企画し、みんなで参加しましょう。</p> <p>イ 地元の食材を利用した郷土料理について学ぶ機会の創出に努めましょう。</p> <p>ウ ヘルスメイト(食生活改善推進員)は、食に関する取組を地域で積極的に推進していきましょう。</p>
生産者・ 事業者	<p>ア 農業、漁業の生産等における様々な体験の機会を通して、収穫の喜びや食の大切さを実感できるようにしましょう。</p> <p>イ 地元で生産される新鮮で安全・安心な農水産物の積極的な使用を呼びかけましょう。</p> <p>ウ 地元の特産物を使った料理を積極的に覚えてもらえるよう、関係団体と連携して普及に努めましょう。</p> <p>《新》エ 食品関連事業者は、様々な食育体験の機会の拡充に努めましょう。</p>
行政	<p>ア 「食」に関する正しい知識の情報発信に努めます。</p> <p>《新》イ 関係団体や大学・短期大学、ヘルスマイト(食生活改善推進員)等のボランティアとの連携を図りながら食育に関する教室等の開催に取り組み、食育の普及啓発を図ります。</p> <p>《新》ウ 生産者や事業者と連携し、学校給食における地元産食材の使用に努めます。また、郷土料理など和食の普及に努めます。</p> <p>《新》エ 幼児教育・保育施設、小・中学校等、地域、生産者・事業者における食育の取組を支援します。</p> <p>オ ヘルスメイト(食生活改善推進員)等ボランティアの育成を支援します。</p>

施策体系 (本文：47, 48 ページ)

「理念」、「基本目標」、「具体的目標」、「分野別重点取組」、「主な具体的取組」の関連性が分かりやすくみえるよう体系化した。

第5章 食育推進のための目標値（本文：51 ページ）

9 指標 19 区分（第1次計画：5 指標 15 区分）

基本目標	指 標 [出典]	現況値	目標値
食で健康なからだをつくる	就寝時間の遅い子どもの割合が減る (3歳児 22時以降) 〔函館市3歳児健康診査〕	3歳児 22.8% (H26)	21.4%
	(小学生 22時以降) (中学生 23時以降) 〔函館市学習意識調査〕	小学4年生 29.1% 中学1年生 41.8% (H24)	24.9% 35.8%
	食で豊かな心を育む		
函館の豊かな食資源や食文化を通して食の大切さを知る	朝食を毎日食べる子どもの割合が増える (3歳児) 〔函館市3歳児健康診査〕	3歳児 91.7% (H26)	100%
	(小・中学生) 〔函館市学習意識調査〕	小学4年生 82.0% 中学1年生 79.2%	100% 100%
	家族で「毎日一緒」, 「週5～6日一緒」 に食事をする保護者を増やす 〔子ども・子育て支援に関するニーズ調査〕	小学生保護者 92.1% (H25) 中学生保護者 89.8%	現状値以上
肥満の子ども(幼児)の割合が減る 〔1歳6か月児および3歳児健康診査〕	1歳6か月児	0.5% (H26)	現状値以下
	3歳児	1.8%	
適正体重と判定される子ども (小・中学生)の割合が増える 〔特定給食施設等実施状況調査〕	小学生	85.4% (H26)	90%
	中学生	83.6%	
子どものむし歯のある割合が減る 〔1歳6か月児および3歳児健康診査〕	1歳6か月児	3.8% (H26)	現状値以下
	3歳児	21.5%	
12歳児の一人平均むし歯本数が減る 〔学校保健統計調査〕		2.01本 (H26)	1.80本
学校給食における野菜, 魚介類, 海藻類の 地場産(函館産)食材の使用割合が増える 〔(教育委員会)食材産地別調達実績〕	野菜	39.3% (H26)	現状値以上
	魚介類	28.5%	
	海藻類	59.9%	
ヘルスマイト(食生活改善推進員)を増やす 〔食生活改善協議会実績〕		99人 (H26)	現状値以上

〈参考資料〉

「第2次はこだてげんきな子 食育プラン（函館市食育推進計画）」策定に係る経過

平成27年7月	関係課長会議（第1次計画の評価について）
平成27年8月	第1回策定委員会 （第1次計画の評価結果について）
平成27年10月	関係課長会議 （第2次計画素案（たたき台）について）
平成27年11月	第2回策定委員会 （第2次計画素案（たたき台）について）
平成28年1月	関係課へ第2次計画（素案）の内容確認依頼
平成28年1月	関係部長会議
平成28年1月	第3回策定委員会 （第2次計画（素案）について）
平成28年2月	政策会議（第2次計画（素案）について）
平成28年2月	市議会民生常任委員会で説明
平成28年2月～3月	パブリックコメント実施
平成28年3月	計画策定（計画期間 平成28年度～32年度）

〈参考〉食育推進庁内関係部・課

部・課		
子ども未来部	子どもサービス課	
	次世代育成課	
	母子保健課	
農林水産部	企画調整課	
	農務課	
教育委員会	生涯学習部	生涯学習文化課
	学校教育部	教育指導課
		保健給食課
保健福祉部	保健所生活衛生課	
	健康増進課	